

子どものココロ親知らず、親のココロ子知らず ～子どもとの上手な付き合い方～

東京都立大学特任教授・原町田心理相談室 永井 徹先生

子どもへの対応の困難さ

児童虐待が増えてきている。

子どもの叫びでもあるが、親の叫びでもある。
(それだけ子育てが難しくなっていて、親も苦しんでいる)



育てるのが難しいとき → 関係機関へ相談を

児童相談所や医療機関など



子どもも親も安心して睡眠がとれる環境を作ることが大切!!

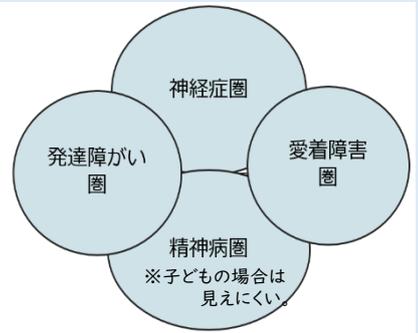


子供のこころを開くために・・・



小学校1～3年なら遊戯療法(プレイセラピー)が有効。
子どもは遊ぶことで自己表現をする。
遊びは言葉と同じくらい大切。

課題の整理



子どもの課題がどこに起因しているのか考え、支援に生かすことが大切。

低学年

- ・他者とどう折り合いを付けるかが課題。
- ・学校への不適応から様々な課題が顕在化。
- 支援者同士がよくコミュニケーションをとって課題の要因を確認する。

中高学年

- ・親子関係が難しくなってくる時期。
- ・自己意識が目覚める時期。家族関係に一番敏感。
- ・家族の変化をきっかけに、問題行動を起こす子どもは多い。
- ・親からの分離を求める。
- 家族の状況についてきちんと説明する。夫婦げんかに気を付ける。

中学生

- ・子の親離れ、親の子離れ。
- ・親自身が中学生だったときに、足りていなかった部分が出てくることもある。
- 拒否せずに受け止める。自分の体験を話す。

発達段階の特徴と課題

子どもの発達段階に 対応した親の課題

乳幼児期

絶対的な養育・保護を求められる。

児童期前期

子どもの社会化に伴う親自身の社会化。

児童期後期

家庭の問題が顕在化。子どもの自我のめざめ。

思春期前期

子離れ・親離れの課題。

思春期後期

自身の後半の課題(更年期)に直面。

青年期

親の介護、社会的立場の変化。老後に向けて。

昔話の教えより

「赤ずきん」

この体験を通して成長

【自立】
森のおばあちゃんところへのお使い

【危機からの脱出】
猟師による救出



【親との約束を破る】
道草

【危機への直面】
オオカミとの遭遇

子どもの成長に寄り添った視点

- ①子どもの親として、自らの親との関わりを踏まえつつ親になる
- ②内なる子どもとして、親自身の子どもとしての課題に向き合う
- ③現実的な子どもとの親離れ・そして親の子離れ
- ④現実的な介護を必要とする親への対応と子どもとしてどう向き合うかという課題に取り組む
- ⑤夫婦関係についての課題に今一度取り組む